

岡建管第328-1号
平成20年10月2/日

国土交通省道路局長 様

岡部町長 井 田 久 義



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（報告）

平成20年9月10日付け国道企第37号で依頼のありました件につきまして、別紙の
おり報告いたします。

岡部町建設課建設管理G
054-667-3426

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

静岡県岡部町

本町のように地方の中山間地の町では、地方分権や少子高齢化が進行するなか、行政を取り巻く環境は大きく変化し、財政状況も非常に厳しいものとなっているのが現状です。

特に、町の基幹産業である農業において、新東名高速道路を含む幹線道路網が整備されれば産地直送便を新鮮なうちに首都圏にも配送でき、更に観光資源を活用して地域への観光客増加など新たな取組も可能となり、低迷する地域経済の活性化に繋がり、過疎化の歯止めへと期待が持たれるところでもあります。

また、東海地震が予想されるなか、当町のような地域では震災による集落の孤立、ライフラインの遮断なども予想され、町民の生命・財産を災害から守る為にも長大な法面における道路防災工事又は橋梁の落橋防止対策などは喫緊の課題であり、住民生活の基盤となる道路整備は着実に進めて行かなければなりません。国においては地方の現状も十分に把握した上で、道路整備に必要な財源を確保し、地域間格差の無い社会構築に全力を傾けて頂くことを切に御願います。

②-1 地域の現状と抱える課題

静岡県岡部町

本町では、国道 1 号及び県道藤枝静岡線が東西の軸に、県道静岡朝比奈藤枝線、県道焼津岡部線、県道焼津森線及び県道相俣岡部線が南北の軸となって、幹線道路網を形成しています。

しかしながら、幹線道路の一部に未整備区間が残されており、交通安全上危険な箇所も見受けられます。

今後も、新東名高速道路のインターチェンジ開設に伴い、町内での自動車交通量が増大することが予想されるため、近隣市町との連携を図りながら計画的な幹線道路の整備を促進していく必要があります。

一方、町の既成市街地や集落地においては、生活道路が狭い区間があり、自動車や人の通行に支障をきたしているところが見られます。中心市街地においては、地域との連携により、区画街路を整備するなど、生活道路の改良に努めてきましたが、町全域を見ると、改良・整備が必要な路線や箇所が数多くあるのが現状です。

今後も交通安全上や防災の観点から、生活道路の改良を推進していくことが求められており、町内を安全に歩くことが出来るように歩道の整備や車両の幹線道路への誘導策を推進する必要があります。

②-2 地域の目指すべき将来像

静岡県岡部町

本町においては、新東名高速道路のインターチェンジ開設などによる都市への影響や交通量の増加などを踏まえた上で、近隣市町と連携しながら効果的な幹線道路網の構築を図るとともに、県道の整備・改良の促進に努めます。

一方、自動車や人の通行、緊急活動の空間確保による安全性に配慮した生活道路としていくため、県道・町道の改良を積極的に進めるとともに、電柱の民地移設・電線地中化を促進します。また、人優先の生活道路づくりのために、車両の幹線道路への誘導策やコミュニティ道路の整備・通学路を中心に歩道の整備や歩行空間の確保（旧東海道沿線の歩行空間も含め）・高齢社会などを踏まえて、誰もが歩きやすい歩道とするためにユニバーサルデザインの導入を図ります。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

静岡県岡部町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
効果的な交通体計の整備 人にやさしい交通環境の整備	体系的な道路網の構築 新東名高速道路の建設促進 幹線道路網の整備促進 県道の改良促進 生活道路の整備・充実 区画街路整備・町道改良 まちづくり交付金事業の活用 歩行空間の確保とユニバーサルデザイン化の促進 電線共同溝の整備	産業文化の発展と現東名の事故・補修時の町中心市街地への交通量の緩和 志太地域における産業文化の発展 町北部地域における交通安全の確保及び地域経済の活性化 生活環境の改善 町南部における住環境を整え・交流を深める場の創設 児童の通学路の確保・高齢者のための段差の解消等 中心市街地の快適な通行空間の確保・都市景観の向上等	